

勝運をつかむ 100 の金言

著書 桜井 章一 致知出版社

敗因

勝負における敗因の 99%は自滅です。

本当の強さ

勝負には「終わり」はないと私は考えています。いつも「始まり」という感覚でとらえるのが、本当の強さだと思います。

敵も味方

実際には、対局相手となる敵はいるのだが、あるときから徐々に「敵も味方」というような感覚が、私の中に芽ばえ始めたのである。「勝ったのがおれなら負けたのもおれ」、勝った裏側に負けた自分がある、そんな感覚もあった。

癖

素直な人は癖が少ない。

ひらめき

ひらめきを生む感覚を養うには、日頃からいろんなことに気付ける人でなければならない。「気付き」という感覚、感性を持っている人はひらめきにも恵まれやすい。

変化

変化が百くらいあるかもしれない中で、一つひとつの変化にいちいち大きく動いてはいけない。変化に間に合うには大きな動作をしてはいけないのだ。勝負のような場においてはそれは大きな命取りになる。

思い込み

人のさまざまな考えの中でもっとも重たいのが、思い込みである。

運とツキ

運やツキは気持ちのいい場所に集まってくる。マイナスの思考に占拠されてしまっているような人のところに運やツキは決して寄ってこない。

運が人を選ぶ

運は求めてやってくるものではなく、`運が人を選ぶ`のです。

伸びない人

教わったことが入りやすい人と、入りにくい人がいる。入りにくい人は心を閉ざしている。そういう人は伸びない。

たゆまぬ努力

たとえば、熱く焼けた石に水をかけることを「焼け石に水」と言いますね。水をかけてもすぐに乾いてしまう。水をジュッとほじけさせてしまう。でもね、何回もやり続けるんです。何回も、何回も。そうすると、「いま、石の中に水が入ったぞ」という瞬間があるんです。これがたゆまぬ努力というヤツだね。

勝負所

多く人は自分がよい状態になったときが`勝負所`だと思っている。でも、私にとっての`勝負所`は最大の苦境が訪れたとき。負けたら被害がさうとう大きいという状態に置かれたときが`勝負所`だと思っている。

いかに負けるか

みんな勝ち方は考えるのですが、勝ち方よりも負け方のほうが絶対に大切です。そうすると自分の反省点も分かるし、相手の負けた原因も分かる。勝ち方ばかり追求すると、それが見えなくなってしまう。なぜ負けるかのほうが、よく分かるのです。いろんなことができないからこそ、学ぶ。負けから学ぶのです。負け方が格好いいヤツが、一番いいのではないのでしょうか。

守ったら負け

よく「守りの野球」なんて言うけど、勝負に守りはない。勝負には攻撃と受けしかない。攻撃するための受けがあるだけです。守ったら、もう負けですよ。